

## 2026年度事業計画書案

自 2026年 4月 1日  
至 2027年 3月31日

# 目 次

<b>1. 基本方針</b> .....	1
<b>2. 定時総会、理事会の開催に関する事業</b> .....	1
1) 2026年度定時総会の開催 .....	1
2) 理事会の開催 .....	1
<b>3. 委員会の開催に関する事業</b> .....	2
1) JAPAN PACK 2027 実行委員会 .....	2
2) 包装学校企画運営委員会 .....	3
3) 広報推進委員会 .....	4
4) 産学連携WG .....	5
5) 技術委員会 .....	6
6) ISO/TC313国内審議委員会 .....	7
7) IOT WG .....	7
<b>4. 会員等諸会合の開催</b> .....	7
1) 歳末特別講演会の開催 .....	7
2) 創立60周年記念パーティ・新年賀詞交歓会の開催 .....	8
3) 支部役員会・支部会の開催 .....	8
<b>5. 調査、各種情報収集・提供等に関する事業</b> .....	8
1) 包装・荷造機械生産高・輸出入高の調査 .....	8
2) 技術情報の収集・提供等 .....	8
3) 各種情報の発信等 .....	9
<b>6. 人材育成、セミナー、講習会に関する事業</b> .....	9
1) 包装学校 .....	9
2) 青年部会 .....	9
3) 各種セミナー・講習会 .....	11
<b>7. 国の施策に関する事業</b> .....	11
1) 中小企業等経営強化法に係る証明書発行に関する事業 .....	11
2) その他各種施策への対応 .....	11
<b>8. その他関連事業</b> .....	11
1) 創立60周年記念に関する事業 .....	11
2) 包装機械会館の運営に関する事業 .....	12
3) 会員企業の販売促進、経営安定化に関する事業 .....	12
4) 福利厚生に関する事業 .....	12
5) 関連産業との連携 .....	12

## 1. 基本方針

2025年度は、米中対立の継続に加え、ウクライナ情勢や中東地域における地政学的リスクの長期化、米国の関税措置を巡る不透明感などにより、世界経済の先行きは引き続き不安定な状況が続きました。また、資源・エネルギー価格、原材料価格、部品価格および人件費の上昇が企業活動に影響を及ぼし、中小企業を中心に厳しい経営環境が続きました。国内においては、賃上げの広がりや企業収益の改善を背景に、設備投資は省力化・自動化需要を中心に底堅く推移しました。一方で、物価上昇による個人消費の伸び悩みや、先行き不透明感による投資判断の慎重化もみられ、当業界を取り巻く環境は、回復傾向を示しつつも、引き続き慎重な対応が求められる状況となりました。

経済産業省が発表した生産動態統計によれば、2025年度の包装機械の生産金額は2,213億円となり、対前年度比9.2%増となりました。輸出については、中国経済の低迷による影響が引き続き懸念される一方、欧州および米国向けを中心に一定の需要が見られました。財務省発表の貿易統計によると、2025年度の輸出額は699.9億円となり、対前年度比11.5%増となりました。

2026年度においても、人手不足への対応、省力化・自動化、食品安全、環境対応、包装資材の多様化などを背景に、包装機械に対する需要は一定程度見込まれます。一方で、原材料・部品価格および人件費の上昇、海外経済の減速懸念、米国の関税措置をはじめとする通商政策の変化など、会員企業の事業活動に影響を及ぼす要因については、引き続き注視してまいります。

当会は、包装機械および関連業界に関する情報収集を行うとともに、国・自治体による企業支援施策、通商政策、環境規制、標準化・安全に関する情報提供を通じて、会員企業の事業活動を支援してまいります。また、関係機関との連携を図りながら、当業界の持続的な発展と競争力の向上に資する事業を推進してまいります。

## 2. 定時総会、理事会の開催に関する事業

定款に基づく定時総会・理事会の開催、当会内規に基づく支部役員会・支部会の開催をはじめ各事業委員会等を開催し、本年度事業の円滑かつ適切な推進に努める。

### 1) 2026年度定時総会の開催

定款の規定に基づき、2026年度定時総会を開催し、2025年度事業報告書ならびに決算報告書の審議・承認、および2026年度事業計画案・収支予算案の報告を行う。

月 日：2026年 5月27日（水）

会 場：鉄鋼会館 801号室（東京都中央区）

### 2) 理事会の開催

定款の規定に基づき、2026年5月（2回）、9月、12月、2027年3月の計5回理事会を開催し、2026年度の役員体制、事業の進捗状況、役員の業務執行状況等の確認・審議・承認を行い、事業の円滑な推進に努める。

#### ※第375回理事会

月 日：2026年 5月27日（水）

会 場：鉄鋼会館 704号室（東京都中央区）

#### ※第376回理事会

月 日：2026年 5月27日（水）

会 場：鉄鋼会館 801号室（東京都中央区）

※第377回理事会

月 日：2026年 9月15日（火）  
会 場：オンライン会議（愛知県名古屋市）

※第378回理事会

月 日：2026年12月 2日（水）  
会 場：静岡県浜松市（予定）

※第379回理事会

時 期：2027年 3月16日（火）  
会 場：包装機械会館 会議室（東京都中央区）

### 3. 委員会の開催に関する事業

JAPAN PACK 2027実行委員会、包装学校企画運営委員会、広報推進委員会、技術委員会、青年部会等の委員会を逐次開催し、本年度事業の円滑な推進に努める。

#### 1) JAPAN PACK 2027 実行委員会

JAPAN PACK 2027 実行委員会（委員長：安達 拓洋 氏 イーデーエム株式会社 社長）は、2027年10月の「JAPAN PACK 2027 日本包装産業展」の開催へ向けて、本年度より各種委員会活動を推進する。

第36回を迎える本展は、包装機械、包装資材、包装材料加工機械、食品加工機械、医薬品・化粧品・日用品製造機器、物流機器をはじめ、それらに関連する最新技術・サービスを一堂に展示公開し、産業の合理化、国民生活の向上、貿易振興を図ることで、包装関連業界および需要業界の発展を通じた、より良い社会の実現に資することを目的としている。開催期間は2027年10月6日（水）から8日（金）までの3日間、会場は東京ビッグサイト東展示棟。

食品・飲料・医薬品・化粧品・日用品・工業製品など、あらゆる製品のライフサイクル「つくる・包む・届ける・つかう・循環させる」における技術課題を“包む起点”で解決する包装産業展示会として、「生産性向上・産業競争力の強化」「環境配慮設計・資源循環の推進」「次世代領域との共創による産業進化」「国際交流・ビジネスハブ構築」「工業会活動・業界動向発信による業界発展支援」を展示会設計の主要テーマに掲げ、ステークホルダーに新たなベネフィットを創出し、関連産業のさらなる発展を後押ししていく。

なお、本展では、展示会全体の魅力向上と出展者・来場者双方の成果最大化を目的に、従来の4日間開催から3日間開催へ移行する。来場者の集中により商談機会や交流の質が向上し、出展者は運営や人員配置を効率化できるほか、搬入出を含むスケジュール負担も軽減される。限られた期間に成果を集約した、より実効性の高い展示会を目指す。

※DXプロジェクトチーム 第1回会議

月 日：2026年 4月17日（金）  
会 場：オンライン

内 容：1) JAPAN PACK 2027開催計画案について  
2) 包装×DXプロジェクトチーム活動計画案について  
3) 今後のスケジュールについて

※包装ライフサイクルコーナー第1回会議

月 日：2026年 5月20日（水）  
会 場：包装機械会館（東京都中央区）

内 容：JAPAN PACK 2027における同コーナーの方向性および  
7月開催予定のイベント企画について

※DXプロジェクトチーム 第2回会議

月 日：2026年 5月29日（金）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

※包装ライフサイクルフォーラム（仮称）

月 日：2026年 7月 8日（水）または9日（木）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）／オンライン

内 容：第1部：セミナー、第2部：シンポジウム、第3部：交流会

※第1回実行委員会

月 日：2026年 8月（予定）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

※開催説明会

月 日：2026年 9月（予定）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

※包装ライフサイクルイベント（仮称）

月 日：2026年12月（予定）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）／オンライン

※実行委員会およびDX/GXプロジェクトチーム活動の推進

※各種コミュニケーションツールを活用したプロモーション施策の推進

※出展ベネフィットの拡大につながる特別展示企画の検討・立案

※来場者層の課題解決を基調とした併催イベントの検討・立案

※APAC活動による海外出展勧誘・来場誘致アプローチの推進

※国内外関連展示会におけるプロモーション

- ・2026 中部パック（4月）
- ・interpack 2026（5月）
- ・FOOMA JAPAN 2026（6月）
- ・ProPak Asia 2026（6月）
- ・ProPak Indonesia 2026（7月）
- ・TOKYO PACK 2026（10月）
- ・PACK EXPO International 2026（10月）
- ・ProPak PHILIPPINES 2027（2027年2月）
- ・2027 モバックショウ（2027年3月）
- ・ProPak Vietnam 2027（2027年3月）
- ・その他（適宜）

※関連委員会等との連携による関係企画の拡充（予定）

## 2) 包装学校企画運営委員会

包装学校企画運営委員会（委員長：一岡 幹朗氏 協和電機株式会社 代表取締役社長）は、包装機械メーカーの技術者、セールスエンジニアならびにユーザー企業の包装担当者を対象に、本年6月から開講の第53期包装学校の運営ならびに来期包装学校の開講準備にあたり、活動を計画・推進する。委員は自ら講師を務めるとともに、講座全体の充実化を図る。

※第127回包装学校企画運営委員会

月 日：2026年 5月19日（火）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

※第53期開講式・グループワーク（オリエンテーション）

月 日：2026年 6月16日（火）

会 場：機械振興会館（東京都港区）

月 日：2026年 6月26日（金）

会 場：大阪商工会議所（大阪府大阪市）

※第128回包装学校企画運営委員会

月 日：2026年 8月25日（火）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

※第129回包装学校企画運営委員会

月 日：2026年11月24日（火）（予定）

会 場：大和製衡株式会社（兵庫県明石市）

※第130回包装学校企画運営委員会

月 日：2027年 1月（予定）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

※第53期ディベート・修了式

月 日：2027年 3月 5日（金）

会 場：機械振興会館（東京都港区）

月 日：2027年 3月12日（金）

会 場：大阪商工会議所（大阪府大阪市）

### 3) 広報推進委員会

広報推進委員会（委員長：下島 敏章 氏 ストラパック株式会社 社長）は、関連業界等と連携強化を図りながら以下の委員会活動を推進し、国内外に向けてジャパンブランドを広くアピールすることにより、当工業会ならびに会員企業ひいては関連業界各位の価値向上に寄与する。

※第37回広報推進委員会

月 日：2026年 4月28日（火）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

内 容：2026年度事業計画の詳細について

※i n t e r p a c k 2 0 2 6 視察団

月 日：2026年 5月10日（日）～15日（金）6日間

会 場：デュッセルドルフ見本市会場（ドイツ・デュッセルドルフ）

※P r o P a k A s i a 2 0 2 6 日本パビリオン

月 日：2026年 6月10日（水）～13日（土）4日間

会 場：IMPACT CHALLENGER HALL（タイ・バンコク）

出展者：株式会社エー・アンド・デイ、大森機械工業株式会社、株式会社川島製作所、株式会社コマック、澁谷工業株式会社、株式会社高砂、司化成工業株式会社、株式会社塚谷刃物製作所、株式会社東京自働機械製作所、トキワ工業株式会社、株式会社トパック、ニッカ電測株式会社、株式会社ニッサンキコー、日本ポリスター株式会社、フードテクノエンジニアリング株式会社、

株式会社古川製作所、株式会社三橋製作所、村田機械株式会社、  
株式会社横浜自働機、一般社団法人日本包装機械工業会  
(以上、20社・団体、444㎡≒約49小間)

※第38回広報推進委員会

月 日：2026年 7月15日 (水)  
会 場：包装機械会館 (東京都中央区)  
内 容：2026年度事業計画の詳細について

※PACK EXPO International 2026視察団

月 日：2026年10月17日 (土)～22日 (木)  
会 場：McCormick Place (アメリカ・シカゴ市)

※ライオンケミカル株式会社見学会

月 日：2026年10月28日 (水)  
会 場：ライオンケミカル株式会社オレオケミカル事業所 (香川県坂出市)

※Next Package 2026 食品・包材容器メーカーとの交流

月 日：2026年11月26日 (木)  
会 場：秋葉原UDX Gallery (東京都千代田区)

※「P&M通信」タッチポイント拡大活動

中部パック2026、FOOMA JAPAN 2026、  
TOKYO PACK 2026、Next Package 2026、  
MOBAC SHOW 2027

※「P&M通信」包装関連展特集

FOOMA JAPAN 2026、TOKYO PACK 2026、  
MOBAC SHOW 2027

※「P&M通信」座談／インタビュー企画 (年度内4回)

※「P&M通信」の発行 (原則月2回)

※日本包装機械工業会セミナー〔自動化・デジタル分野、環境・包材分野〕  
(適宜)

※日本包装機械工業会 会員セミナー (適宜)

※産学連携ワーキンググループ企画の実施サポート (適宜)

※APACとの連携 (適宜)

#### 4) 産学連携WG

産学連携WG (リーダー：神谷 泰仁 氏 マキー・エンジニアリング株式会社社長) は、包装が人々の暮らしや社会基盤を支え、未来を創り出す力を持つ産業であることを、教育機関との連携を通じて広く発信し、業界の認知度向上を図るとともに、人手不足や採用難などの業界共通課題の解決に貢献することを主な目的に活動を行う。

※第2期産学連携WG発足

月 日：2026年 4月 1日 (水)

※第1回産学連携WG会議

月 日：2026年 4月17日 (金)  
会 場：オンライン

内 容：2026年度事業計画の詳細について

※第1回勉強会

月 日：2026年 5月26日（火）

会 場：オンライン

※第2回産学連携WG会議

月 日：2026年 5月29日（金）

会 場：オンライン

内 容：2026年度事業計画の詳細について

※青年部会とのインナーブランディングなどに関するコラボ勉強会

月 日：2026年 9月 9日（水）

会 場：Karui zawa Prince The Workation  
Core（長野県北佐久郡）

※東京工科大学デザイン学部共同研究 2年生への包装業界レクチャー①

月 日：2026年 9月14日（月）

会 場：東京工科大学「蒲田キャンパス」（東京都大田区）

※TOKYO PACK 2026「包装業界見学ツアー」

月 日：2026年10月14日（水）～16日（金）3日間

会 場：東京ビッグサイト東展示棟（東京都江東区）

※東京工科大学デザイン学部共同研究 2年生制作発表会／講評①

月 日：2026年11月10日（火）

会 場：東京工科大学「蒲田キャンパス」（東京都大田区）

※東京工科大学デザイン学部共同研究 2年生への包装業界レクチャー②

月 日：2026年11月16日（月）

会 場：東京工科大学「蒲田キャンパス」（東京都大田区）

※東京工科大学デザイン学部共同研究 2年生制作発表会／講評②

月 日：2027年 1月12日（火）

会 場：東京工科大学「蒲田キャンパス」（東京都大田区）

※東京工科大学デザイン学部作品展示

中部パック2026、FOOMA JAPAN 2026、  
TOKYO PACK 2026、Next Package 2026、  
MOBAC SHOW 2027

※東京工科大学デザイン学部との共同研究企画（適宜）

※産学連携セミナーの開催（年度2回程度）

※採用／育成等に関する勉強会（月1回程度）

※「P&M通信」を活用した発信〔大学の研究、WGの活動等〕（適宜）

※包装業界の認知度向上に向けたウェブサイトの更新（適宜）

※JAPAN PACK 2027機電系学生との接点づくりに向けた  
イベント準備（適宜）

## 5) 技術委員会

業界における技術面での問題や将来的な課題を見出し、検討を具体化して会員への情報発信に繋げる

### (1) 包装機械の新技术研究および情報発信

包装機械に関わる先端技術での最新情報収集のための工場訪問及び意見交換  
包装に関わる素材、環境や規格等の最新情報収集及び意見交換

### (2) ISO国際規格への対応

包装機械の「ISO国内審議委員会」の運営を継続・充実させる

### (3) IOT WGのサポート

包装機械の標準化仕様の基準となるIOT活用指針の充実、及び、会員企業や  
ユーザー等に周知を行うWGに対して支援する

### (4) 警告マークの頒布

機械のオペレーターや保守担当者に危険箇所を適切に表示・告知する「警告マ  
ーク」和文のみを広く包装機械・関連機器メーカーへの頒布を継続する。

## 6) ISO/TC313国内審議委員会

包装機械におけるEN415規格のISO化(ISO/TC313)に伴って、  
ISO国際会議への参加を含み、平成29年度に発足した「ISO国内審議委員  
会」の運営を継続・充実させる。新ISO規格を基にしたJIS規格の着手を計  
画する。

ISO国内審議委員会は、2回/年を予定  
会 場：包装機械会館（東京都中央区）

### ※ISO/TC313国際会議

月 日：2026年11月12日（木）  
会 場：イタリア ミラノ

## 7) IOT WG

包装機械類標準仕様の検討となるIOT導入・活用の「指針：JPack-Fmt」を周知  
することにより包装機械業界およびユーザー業界双方の生産性向上に寄与する

### (1) JPack-Fmt（標準化指針）の周知

7月16日(木)に行うアンバサダー部会およびTokyoPackのイベントによ  
り、メーカー・ユーザー及び関連団体等に広く周知を行う

### (2) JPack-Fmt（標準化指針）の運用

実質的運用についてメーカーおよびユーザーの意見を収集し、柔軟な  
ルール作りを目指す

### (3) 包装機械ユーザーとの連携

包装機械ユーザーとの連携を行い、次のステップに共に進んでいくプロジェ  
クトに参加する

### (4) 標準化指針の充実

正式発表後に網羅されていない包装機械や関連機器について、フォーマッ  
トに取り入れる計画を立て、メンバーの再編成も行う

## 4. 会員等諸会合の開催

定款に基づき歳末特別講演会、新年賀詞交歓会、支部会を開催し、本年度事業の  
円滑かつ適切な推進に努める。

### 1) 歳末特別講演会の開催

2026年12月2日（水）に歳末特別講演会を開催し、会員間の情報交換を  
推進する。

月 日：2026年12月 2日（水）

会 場：静岡県浜松市（予定）

## 2) 創立60周年記念パーティ・新年賀詞交歓会の開催

2027年1月13日（水）に関係官公庁、当会会員、金融機関、関係団体の方々をお招きして、株式会社日本包装リースと合同で2027年新年賀詞交歓会を開催する。また創立60周年となることから記念パーティを併催する。

月 日：2027年 1月13日（水）

会 場：パレスホテル東京 4階「山吹」

## 3) 支部役員会・支部会の開催

2026年度事業報告ならびに2027年度事業計画案の報告、ならびに会員企業からの意見・要望の聴取を目的として東日本支部会、西日本支部会を開催する。

※第5回東日本支部会

月 日：2027年 3月 9日（火）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

※第5回西日本支部会

月 日：2027年 3月11日（木）

会 場：（大阪）

## 5. 調査、各種情報収集・提供等に関する事業

国内外の包装機械・関連機器に関する技術情報や関連規格等の情報を調査・収集し、広く一般に公開してわが国包装機械産業・関連機器産業の技術高度化ならびに需要業界の包装合理化に資することを目的として、本年度は次の事業を推進する。

### 1) 包装・荷造機械生産高・輸出入高の調査

わが国の包装機械メーカーを調査対象として、2025年度の生産高と輸出入高ならびに2026年度の生産計画の調査を実施する。

調査結果については「包装機械及び荷造機械生産高・輸出入高統計資料」としてまとめ、会員企業をはじめ広く一般に頒布・公開する。

### 2) 技術情報の収集・提供等

#### (1) 技術センター事業

技術委員会で工業会における技術事業のあり方を検討し、技術センターの事業方針を決定する。そして技術委員会で決定した事業に取り組む。

また、従来検査センターの事業として行ってきた、包装機械および関連機器の安全性・衛生性高度化の周知・啓蒙を推進し、労働災害事故の発生を抑えることによってユーザー業界からの信頼性を高め、包装機械産業の発展に貢献することを継続する。

#### (2) 包装技術相談と引き合いの斡旋

国内外のユーザーからの包装機械・関連機器等に関する各種技術相談を受け付け、製品引き合いに対する会員企業等への斡旋事業を推進するとともに会員企業からの技術開発の向上に関する相談の推進と関係資料の配布に努める。

#### (3) 機械安全・衛生指導事業

①CEマーキング、リスクアセスメント、「包装・荷造機械の安全基準－2013」等、安全／衛生の技術相談に対応する。

②包装機械が、「包装・荷造機械の安全基準－2013」・「包装・荷造機械の衛生基準－2018」に適合しているかの相談業務を行う。

#### (4) 「包装・荷造機械の衛生基準－2018」の普及、啓蒙、指導

2017年度に当会の自主基準である「包装・荷造機械の衛生基準－2018」を制定し、会員企業を中心にユーザー業界等に配布したが、本年度は昨年度に引き続き、本基準がわが国の包装機械製作の際の基準であることの普及、啓蒙ならびに指導に努める。

#### (5) 各種資料・情報の収集・公開

国内外の包装機械関連の技術情報、規格および統計資料等の収集を行い、会員企業をはじめ広く一般に公開する。

### 3) 各種情報の発信等

#### (1) 機関媒体の発行に関する事業

WEB版機関誌「パッケージ&マシン通信」(A4サイズ・購読料無料)を毎月2回メール配信し、わが国の包装機械、関連機器、包装資材等の新製品・新技術情報や当会事業活動、国の施策や機械統計(経済産業省)、貿易統計(財務省)等の情報を包装機械業界およびユーザー業界へ周知・広報することにより、包装業界と需要業界を結ぶ橋渡し役を担う。

## 6. 人材育成、セミナー、講習会に関する事業

### 1) 包装学校

わが国包装機械メーカーの技術者、セールスエンジニアならびにユーザー企業の包装担当者を対象として、昭和49年度から包装学校を開講しており、本年度は第53期を迎えることとなった。修了者においては昨年度の第52期までで5,557名を数え、包装機械業界はもとよりユーザー業界からも包装機械に関する唯一の人材育成機関として極めて高い評価を得ている。

本年度は2026年6月から2027年3月までの10カ月間、第53期包装学校を開講して、包装機械業界ならびにユーザー業界包装担当者の人材育成・高度化に努める。

コロナ禍において座学講座をオンデマンドビデオ配信システムへ移行したが、本来の対面講座の要望も高く、講座を順次対面に移行し、より受講生間のコミュニケーションを取れる形にしていく。一方で、自由な時間に繰り返し、柔軟に受講できるオンデマンド講座の要望もあることから、2つの方式を併設するハイブリッド型カリキュラムとする。

各課程の受講料(税別)は次の通りである。

NO	課程名	会 員	非会員
1	包装機械設計技術専門課程	¥340,000	¥390,000
2	パッケージングエンジニア専門課程	¥320,000	¥370,000
3	デジタル制御技術専門課程	¥130,000	¥180,000

注意) デジタル制御技術専門課程は、基礎講座4講座とモーション制御実習講座1講座を開催

### 2) 青年部会

青年部会(部会長:上月 謙太郎 氏 株式会社ケーテー製作所 社長)は、各社のリーダーが自社の成長に直結する学びとネットワークを得ながら、互いに協力し、包装機械産業の未来を共につくることを主な目的に以下の活動を行う。

※第97回幹事会

月 日: 2026年 4月14日(火)

会 場：包装機械会館（東京都中央区）／オンライン  
内 容：2026年度事業計画書（案）について

※2026年度定時総会

月 日：2026年 4月15日（水）  
会 場：包装機械会館（東京都中央区）  
内 容：2025年度事業報告書（案）の承認について  
2026年度役員体制（案）の承認について  
2026年度事業計画書（案）の承認について  
新部会長の方針説明

※チームビルディング活動（ボウリング大会）・情報交換会

月 日：2026年 4月15日（水）  
会 場：東京ドームボウリングセンター（東京都文京区）および近隣会場

※講演会

月 日：2026年 6月17日（水）  
会 場：包装機械会館（東京都中央区）  
主 題：日本製造業の目指すべき姿と変革  
～日本製造業の高付加価値創出へ次世代リーダーの役割とは～  
講 師：田中 剛 氏  
フューチャーアーティザン株式会社 代表取締役社長

※第1回勉強会

月 日：2026年 6月17日（水）  
会 場：包装機械会館（東京都中央区）  
テーマ：10年後に達成していきたい姿と、現状とのギャップ・課題

※第98回幹事会

月 日：2026年 7月27日（月）  
会 場：包装機械会館（東京都中央区）／オンライン  
内 容：2026年度事業計画書（案）の詳細について

※日本包装機械工業会 創立60周年記念誌「青年部会座談会」

月 日：2026年 7月30日（木）  
会 場：丸ノ内ホテル（東京都千代田区）

※夏季セミナー

月 日：2026年 9月 9日（水）、10日（木）  
会 場：軽井沢（長野県北佐久郡）近郊  
内 容：第2回勉強会（産学連携WGとの共同勉強会）、情報交換会、  
懇親ゴルフコンペ

※2027年新年情報交換会

月 日：2027年 1月12日（火）  
会 場：未定

※国内工場見学会・第3回勉強会

月 日：2027年 2月  
会 場：SMC株式会社（茨城県下妻市）  
テーマ：未定

※幹事会（適宜開催）

※会員名簿PDF版の運用

### 3) 各種セミナー・講習会

#### (1) 厚労省通達「設計技術者に対する機械安全教育」講習会開催

日本包装機械工業会は（一社）安全技術応用研究会、職業能力開発総合大学校と共催で講習会を継続開催する。

開催場所・・・オンライン

- ① 機械の安全化と国際安全規格編（2日）  
2026年12月10日（木）、11日（金）
- ② 機械安全におけるリスク低減編（2日）  
2027年 1月13日（水）、14日（木）
- ③ リスクアセスメントの実践と妥当性確認編（2日）  
2027年 2月 4日（木）、 5日（金）
- ④ 機械安全における電気制御システム編（2日）  
2027年 3月 4日（木）、 5日（金）

上記①～④修了者に「修了証明書」を発行する。

#### (2) IEC 60204-1/JIS B 9960-1対応

##### 「実習で学ぶ制御盤の安全検証試験」講習会開催

高度ポリテクセンターと共催で講習会を開催する。

関東会場 高度ポリテクセンター（定員：15名）

2026年 9月 3日（木）、 4日（金）

関西会場 ポリテクセンター京都（定員：15名）

2027年 2月17日（水）、18日（木）

## 7. 国の施策に関する事業

### 1) 中小企業等経営強化法に係る証明書発行に関する事業

2017年7月にスタートした「中小企業等経営強化法」の証明書発行団体として、2017年8月から証明書の発行を開始し、ユーザー業界への設備投資促進に努め、これまで累計11,636通の証明書を発行した。本年度も引き続き証明書の発行を行い、わが国包装機械・関連機器の販売促進に努める。

### 2) その他各種施策への対応

人手不足解消に効果がある汎用製品の導入支援に対する施策「中小企業省力化投資補助金」への対応、周知に努める。

## 8. その他関連事業

### 1) 創立60周年記念に関する事業

2027年1月に創立60周年を迎えるに当たり、新年賀詞交歓会に併せて記念パーティを開催するとともに、60周年記念誌の発行及び記念特集企画を実施する。記念特集企画としては、工業会トップ座談会及び若手座談会を予定。正副会長会を中心に検討を進め、事務局において編集・調整等を行う。2027年3月の記念誌発行・配布を目指す。

## **2) 包装機械会館の運営に関する事業**

株式会社日本包装リースならびに株式会社包装システムと協調し、6階部分の賃貸、2階会議室の貸し出しを促進すると共に包装機械会館の運営・保守保全に努める。

## **3) 会員企業の販売促進、経営安定化に関する事業**

株式会社日本包装リースとの協調によるリース販売の促進、事業承継サポートプログラムの利用促進、ならびに出資業務・アドバイザリー業務などの会員向けサービスの利用促進に努める。また株式会社包装システムと協調し、PL保険・包装機械総合保険への団体加入の促進に努める。

## **4) 福利厚生に関する事業**

全国印刷製本包装機械企業年金基金および印刷製本包装機械健康保険組合の事業に積極的に協力し、加入者の福利厚生事業の充実に努める。

## **5) 関連産業との連携**

(一社)日本食品機械工業会、(公社)日本包装技術協会、(一社)日本食品包装協会、(一社)日本粉体工業技術協会をはじめ、包装関連産業、食品関連産業、製パン・製菓産業、印刷機械産業、電気・電子機器産業などの産業連携や、包括連携協定を締結している東京工科大学工学部との連携、ならびにCLOMA等の官民連携も推進し、包装機械業界の発展に努める。